

平成29年度長野県上田高等学校 定時制 終始業式 校長講話

平成29年（2017年）9月29日

おはようございます。

生徒生活体験発表大会、ご苦労様でした。校内大会もよかったし、東信大会での本校代表2名の発表も、県大会出場は惜しくも逃したけれども、しっかり準備をして大会に臨んでいて、とてもよかったと思います。

衆議院選挙が近づいてきました。いろいろと忙しい人もいるかもしれませんが、投票にはぜひ行ってください。

さて、今年度も、4月から、早いもので、前半の6か月が終わり、残すところ後半の半分となりました。今日は前期の終業式と後期の始業式を一緒に行うという、何とも効率のいい日です。

さて、今日は1人の女性の話をします。

私はテレビ番組を週に何本か録画することになっています。放送されている時間に番組を観ることがほぼ不可能なので、観たい番組を予約しておいて時間のある時に観るようにしています。先週末、「カンブリア宮殿」というテレビ東京の番組、これはケーブルテレビに入っていないと観られないかもしれないけど、その番組を観ていたら、「マザーハウス」という会社の社長をしている山口絵理子さんという30代の女性が出演していました。「マザーハウス」という会社は、アジアの貧しい国の材料と、その国の人たちの伝統的な技術を使って、その国の工場で作った、バッグや財布といった製品を販売する店を経営している会社で、東京や名古屋、京都や大阪といった大都市や、海外の台湾や香港に、何店も店を出していて、結構人気なんだそうだ。

その山口さんは、小学校時代に、いじめにあって不登校になったそうです。小学校時代に1回も給食を食べたことがない。中学校時代はその反動で髪を染め、授業をさぼり、毎日遊び歩いていた。そんなある日、偶然街の中で柔道の練習を見かける。いじめられていたから自分も強くなりたいと思ったのと、女の子が男の子を投げ飛ばす姿がかっこいいなあと思ったのとで、柔道の強い大宮工業高校というところに入學し、初の女性部員として毎日泣きながら男子と同じ練習を頑張り、全国で7位になったそうだ。ところが、高校入學の目的が柔道だったから、最後の大会が終わると、目標がなくなり、これからどうしようか、となった。そして、生まれてからそれまで一度も真剣に勉強してこなかったことに気付いて、よし大学に行こう、と思うんだね。小学校は不登校、中学校は遊び歩いて学校に行っていない。高校は柔道ばかりしていた。だから、勉強の基礎がない。それで大学を受けようというんだから、大変だ。それでも、山口さんは、来る日も来る日も猛勉強に励み、慶応大学に見事合格

して、入学することになった。一般入試で慶応大学に入ったのは、この学校ができて以来初めてのことだったそうだ。勉強したいと思って入った大学だから、いろいろ勉強した。その中で、海外に興味を持ち、アメリカの国際機関にインターンとして採用されたそうだ。そして、貧困問題に興味があったから、「アジア最貧国」とネットで検索してみると「バングラディッシュ」と出てきた。じゃあそこに行こうということで、実際に一人でバングラディッシュに行くんだね。そしたら、想像をはるかに上回ってとても貧しい上に、外国からの援助が少しも国民に届いていない。山口さんは、どうしてこうなってしまうんだろうと思って、その日のうちにバングラディッシュの大学院に入学しようと決め、大学院に直談判に行って入学の許可を取る。そして、一旦日本に戻り、大学を卒業した後、2年間バングラディッシュで過ごしたそうだ。日本でやったアルバイトで貯めたお金を使って、バングラディッシュの人たちのために、現地の商品を買って日本で売ろうと考える。それで、現地の工場に注文をしたんだけど、ある時は注文した商品がいつになっても届かないから工場を見に行くともぬけの殻。前金として渡したお金を持ち逃げされた。また別の時には、商品が届いたと喜んで箱の中をみたら、不良品の山。売り物にならなかった。こんな失敗ばかりが続き、もう日本に帰ろうかと思った。でも、その時に、山口さんは、待てよ、本当に自分はできることを全部やったのだろうかと考えた。その結果、24歳の時、さっき言った「マザーハウス」という会社を自分で作ることにした。「マザーハウス」という名前は、尊敬するマザーテレサの「マザー」と、アパートの窓からたくさんの上生活者が見え、この人たちにとって家（ハウス）のような会社でありたいと考えたからなのだそうだ。

それから11年、現在に至るというわけだ。

と、こういう話をすると、すぐに、自分とは住む世界が違うとか、そんな才能は自分にはないとかいう人がいるかもしれない。でも、本当にそうだろうか。

山口さんは、小学校で学校に行けなくなったけど、そのまま学校に行かなかったら社長になっていたのだろうか。中学校で非行に走ったけど、そのまま遊び歩いていたら社長になったのだろうか。バングラディッシュで失敗が続いた時、日本に帰っていたら社長になったのだろうか。

そう考えると、この山口さんという人は、そんなに特別な人ではないような気がしてくる。

山口さんは柔道に出会い、人生が変わった。そう見える。しかし、よくよく見てみると、小学校、中学校の自分とは違う自分になろうと決意して、自分で自分の人生を変えようとしたんじゃないだろうか。マイナスに向かってしまう自分をプラスの方向に変えるようにしたんじゃないだろうか。

人それぞれにそれぞれの人生があるから、他の人と比べる必要はないけれども、山口さんから学べることは、いつも自分と向き合って、「自分は本当はどうしたいんだ?」「本当にじぶんはこれでいいのか?」と、自分の本心や想いはどこにあるのか自分で自分に訊いている。自分と対話している。

自分の人生は自分が本気で思ったようにしかならない。時間はかかるかもしれないけど、前に進んだり後に下がったりかもしれないけど、本気でそうありたいと願い続ければ、そしてそのように行動をし続ければ、たとえゆっくりでもそうなると思う。

4月、新入生を迎え、4年生から1年生まで勢ぞろいした始業式で、年度の初めに当たって、それぞれが「よし、今年は・・・」という想いを持っていると思うけど、その想いを持ち続けて実現してほしい、という話をしました。

そしていよいよ前期が終わるというこの時期を迎えたけれど、君たちは、4月に心に決めたことがうまくいっているだろうか。それともうまくいっていないだろうか。こういう、終業式とか始業式とかいうタイミングは、心機一転、もう一度決意をし直すには絶好のタイミングです。うまく進んでいる人はそのまま進むように、うまくいっていない人は、もう一度気持ちを引き締め直して、張ってほしいと思います。

今年度の後半戦、一緒に頑張りましょう。  
終わります。